

2016年3月期 第3四半期 決算実績 概況資料

2016年2月10日

株式会社西武ホールディングス (9024)

<http://www.seibuholdings.co.jp/>

I. エグゼクティブ・サマリー	P2
II. 主な取り組み及び営業指標	P7
III. セグメント情報	P14
IV. 決算実績 詳細資料	P19
V. 2016年3月期業績予想	P23

I. エグゼクティブ・サマリー

2016年3月期第3四半期 決算実績

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	対前年同期
営業収益	3,590 億円	3,788 億円	+ 197 億円
営業利益	408 億円	560 億円	+ 152 億円
償却前営業利益	706 億円	860 億円	+ 153 億円
経常利益	346 億円	504 億円	+ 158 億円
親会社株主に帰属する四半期純利益	225 億円	198 億円	▲ 27 億円

4期連続増収

4期連続増益

決算実績ポイント

- 営業収益は、インバウンドを確実に取り込んで特に宿泊部門が好調なホテル・レジャー事業（前年同期比+101億円）を中心に順調に推移し、大幅増収。 **▶ 3ページ**

- 営業利益は、増収による増益に加え、コスト減少などもあり、増益。 **▶ 4ページ**

<西武鉄道・鉄道業>

運輸収入 対前年同期+2.2%（定期+2.6%、定期外+1.9%） **▶ 9ページ**

<ホテル業>

客室稼働率 対前年同期+4.3pt（シティ+1.5pt、リゾート+7.2pt）

平均販売室料 対前年同期+12.1%（シティ+14.1%、リゾート+7.2%） **▶ 10ページ**

- 純利益は、特別損失の計上があったことなどにより、前年同期比▲27億円。

業績予想

- 2016年3月期（通期）の連結業績予想を上方修正いたします。 **▶ 23ページ**

I. エグゼクティブ・サマリー

セグメント別営業収益（対前年同期）

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	対前年同期		摘要
都市交通・沿線	1,162 億円	1,176 億円	+14 億円		前期に子会社を売却したことによる減収があったものの、鉄道業において、雇用情勢の堅調な推移や沿線での積極的なイベント活動、沿線観光地のプロモーション強化などのほか、消費増税反動減の解消もあり増収。バス業においても好調に推移し増収。
ホテル・レジャー	1,326 億円	1,427 億円	+101 億円		ホテル業において、レベニューマネジメントの継続とインバウンドの確実な獲得により、シティ・リゾートとともに宿泊部門が好調に推移したほか、仙台うみの杜水族館の開業効果などにより大幅増収。
不動産	357 億円	376 億円	+19 億円		グランエミオ大泉学園の開業や前期に実施した軽井沢・プリンスショッピングプラザの増床に伴う貸付床面積の増加のほか、軽井沢において分譲地を販売したことなどにより増収。
建設	683 億円	688 億円	+4 億円		工事の進捗及び前期からの繰越工事の増加により増収。
ハワイ	101 億円	130 億円	+28 億円		レベニューマネジメントの強化や団体客の取込みのほか、為替レートの変動もあり増収。
その他	293 億円	301 億円	+8 億円		西武ライオンズの観客動員数が増加したことや、近江事業でバス事業が好調に推移したことにより増収。
調整額	▲ 334 億円	▲ 313 億円	+20 億円		
連結数値	3,590 億円	3,788 億円	+197 億円		

I. エグゼクティブ・サマリー

セグメント別営業利益（対前年同期）

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	対前年同期	摘要
都市交通・沿線	191 億円	228 億円	+ 36 億円	増収による増益に加え、電気動力費や燃料費などコストの減少もあり増益。
ホテル・レジャー	85 億円	174 億円	+ 89 億円	増収による増益に加え、退職給付費用の減少などもあり増益。
不動産	111 億円	120 億円	+ 9 億円	増収による増益。
建設	15 億円	14 億円	▲ 1 億円	一部工事で工事損失引当金を計上したことにより減益。
ハワイ	▲ 11 億円	▲ 8 億円	+ 2 億円	増収のほか、光熱費の減少などにより損益は改善。
その他	16 億円	20 億円	+ 3 億円	増収による増益。
調整額	▲ 0 億円	11 億円	+ 12 億円	
連結数値	408 億円	560 億円	+ 152 億円	

I. エグゼクティブ・サマリー

セグメント別償却前営業利益（対前年同期）

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	対前年同期		摘要
都市交通・沿線	350 億円	381 億円	+ 30 億円		増収による増益に加え、電気動力費や燃料費などコストの減少もあり増益。
ホテル・レジャー	167 億円	258 億円	+ 90 億円		増収による増益に加え、退職給付費用の減少などもあり増益。
不動産	139 億円	152 億円	+ 12 億円		増収による増益。
建設	17 億円	16 億円	▲ 1 億円		一部工事で工事損失引当金を計上したことにより減益。
ハワイ	1 億円	6 億円	+ 5 億円		増収のほか、光熱費の減少などにより損益は改善。
その他	34 億円	38 億円	+ 4 億円		増収による増益。
調整額	▲ 5 億円	5 億円	+ 10 億円		
連結数値	706 億円	860 億円	+ 153 億円		

I. エグゼクティブ・サマリー P2

II. 主な取り組み及び営業指標 P7

III. セグメント情報 P14

IV. 決算実績 詳細資料 P19

V. 2016年3月期業績予想 P23

Ⅱ. 主な取り組み及び営業指標 第3四半期までの主な取り組み

全体

- ・『西武グループ ダイバーシティ推進 基本方針』を制定
- ・「2015西武グループFAMツアー」の実施や海外向けテレビCMの放映、海外拠点拡充による外国人向けのプロモーション強化
- ・『東京ガーデンテラス紀尾井町（グランドプリンスホテル赤坂跡地開発計画）』上棟式を実施（2016年7月全面オープン予定）



海外向けテレビCMカット



東京ガーデンテラス紀尾井町
完成イメージ

都市交通・沿線事業

- ・池袋線『池袋～飯能駅間』開業100周年イベントの実施
- ・西武新宿駅で4カ国語（英・中・韓・日）でのご案内を開始
- ・所沢駅に多言語表示対応の『列車運行情報提供システム』を導入
- ・観光案内所「SEIBU Tourist Information Center Ikebukuro」をオープン
- ・「SEIBU FREE Wi-Fi」の提供を開始（ターミナル駅等7駅）
- ・観光列車「西武 旅するレストラン52席の至福」の運行決定（2016年4月17日運行開始）
- ・新型通勤車両「40000系」の導入決定（2017年春運行開始予定）
- ・飯能・宮沢湖にムーミンの世界が体験できるテーマパーク「Metsä（メツア）」を誘致（2017年オープン予定）
- ・「（仮称）西武秩父仲見世通り 複合型温泉計画」の事業決定（2017年春オープン予定）
- ・『西武バス I C 定期券』の発売を開始
- ・高速バス『プリンスエクスプレス箱根芦ノ湖』の運行を開始
- ・高速乗合バス「高岡氷見線」、「南紀白浜線」に新型車両導入



SEIBU Tourist Information
Center Ikebukuro



観光列車イメージ

Ⅱ. 主な取り組み及び営業指標

第3四半期までの主な取り組み

ホテル・レジャー事業

- ・『函館大沼プリンスホテル』及び『箱根仙石原プリンスホテル』、『雫石プリンスホテル』、『サンシャインシティプリンスホテル』において大規模リニューアル
- ・ヨーロッパにおける誘客強化施策として(株)プリンスホテルパリ支店を設立
- ・中国ホテル運営会社「錦江インターナショナル・ホテル・マネジメント・カンパニー・リミテッド」とマーケティングアライアンス契約を締結
- ・新宿プリンスホテル、サンシャインシティプリンスホテル「多通貨決済サービス」を導入
- ・エプソンアクアパーク品川リニューアルオープン
- ・仙台うみの杜水族館開業
- ・かぐらスキー場「スノーマットゲレンデ」オープン
- ・名古屋駅南再開発エリア「ささしまライブ24」に新たに建設される「グローバルゲート」内に、プリンスホテルとして名古屋初となるホテルの開業を決定（2017年秋オープン予定）



エプソンアクアパーク品川



リニューアル後の函館大沼プリンスホテル フロント

不動産事業

- ・池袋線大泉学園駅に商業施設『グランエミオ大泉学園』を開業
- ・駅ナカ商業施設「エミオ池袋」第2期 および「エミオ新所沢」第2期 オープン
- ・池袋旧本社ビル建替えおよび賃貸住宅『（仮称）エミリブ石神井公園』の工事に着手
- ・東京都港区オフィスビルを取得



エミオ池袋



池袋旧本社ビル建替え後
イメージ

Ⅱ. 主な取り組み及び営業指標 営業指標の推移①

西武鉄道株式会社の鉄道業の主な営業指標

(人員単位：千人、金額単位：百万円)

		2013年 3月期 第3Q	2014年 3月期 第3Q	前年同期 増減率	2015年 3月期 第3Q	前年同期 増減率	2016年 3月期 第3Q	前年同期 増減率
輸送人員	定期	289,611	292,374	1.0%	294,911	0.9%	302,825	2.7%
	定期外	180,026	181,178	0.6%	179,653	▲ 0.8%	183,499	2.1%
	計	469,637	473,552	0.8%	474,565	0.2%	486,324	2.5%
旅客運輸 収入	定期	31,643	31,858	0.7%	32,000	0.4%	32,838	2.6%
	定期外	39,322	39,710	1.0%	39,555	▲ 0.4%	40,300	1.9%
	計	70,965	71,568	0.8%	71,555	▲ 0.0%	73,139	2.2%
運輸雑収		4,919	3,114	▲ 36.7%	3,062	▲ 1.7%	3,109	1.5%
収入合計		75,884	74,683	▲ 1.6%	74,618	▲ 0.1%	76,248	2.2%

- 消費増税反動減の解消があったことのほか、定期は雇用情勢の堅調な推移が、定期外は沿線での積極的なイベント活動、沿線観光地のプロモーション強化などがそれぞれ寄与。

Ⅱ. 主な取り組み及び営業指標 営業指標の推移②

ホテル・レジャー事業の主な営業指標

(室料：円、客数：人)

		2014年 3月期 第3Q	2015年 3月期 第3Q	対前年同期	2016年 3月期 第3Q	対前年同期
客室 稼働率	シティ	81.1%	82.4%	+ 1.3pt	84.0%	+ 1.5pt
	高輪・品川エリア	85.5%	85.9%	+ 0.5pt	87.5%	+ 1.6pt
	リゾート	51.9%	48.2%	▲ 3.6pt	55.5%	+ 7.2pt
	軽井沢エリア	51.6%	55.0%	+ 3.4pt	61.8%	+ 6.8pt
	宿泊部門全体	71.1%	70.1%	▲ 1.0pt	74.4%	+ 4.3pt
平均販売 室料	シティ	11,303	12,307	+ 1,003	14,039	+ 1,732
	高輪・品川エリア	10,995	12,286	+ 1,291	14,306	+ 2,020
	リゾート	14,234	14,990	+ 756	16,062	+ 1,072
	軽井沢エリア	29,021	31,757	+ 2,736	32,191	+ 434
	宿泊部門全体	12,037	12,974	+ 937	14,548	+ 1,574
宿泊客の 内訳	邦人客	3,089,030	2,949,992	▲ 139,038	2,787,780	▲ 162,212
	外国人客	526,619	637,394	+ 110,775	863,253	+ 225,859
	計	3,615,649	3,587,386	▲ 28,263	3,651,033	+ 63,647

- シティでは、高い客室稼働率の維持に加え、平均販売室料が上昇。リゾートでは、客室稼働率および平均販売室料ともに上昇。外国人客数は、第2四半期から引き続き大幅に増加。
⇒インバウンドを確実に獲得できたことと、レベニューマネジメントの継続が寄与。

Ⅱ. 主な取り組み及び営業指標 営業指標の推移③

不動産事業の主な営業指標

(面積：千㎡)

		2014年 3月期 第3Q	2015年 3月期 第3Q	対前年同期	2016年 3月期 第3Q	対前年同期
建物賃貸物件 の期末貸付面積	商業施設	213	228	+14	233	+5
	オフィス・住宅	59	57	▲1	59	+1
建物賃貸物件 の期末空室率	商業施設	0.9%	1.1%	+0.2pt	1.2%	+0.1pt
	オフィス・住宅	8.3%	6.6%	▲1.7pt	15.5%	+8.9pt

建設事業の主な営業指標

(金額単位：百万円)

	2014年 3月期 第3Q	2015年 3月期 第3Q	対前年同期	2016年 3月期 第3Q	対前年同期
期首繰越高	58,012	62,321	+4,308	84,335	+22,014
期中受注高	56,809	63,926	+7,118	56,172	▲7,754
期末繰越高	71,253	77,613	+6,360	89,913	+12,300

Ⅱ. 主な取り組み及び営業指標 営業指標の推移④

ハワイ事業（ホテル）の主な営業指標

	2014年 3月期 第3Q	2015年 3月期 第3Q	対前年同期	2016年 3月期 第3Q	対前年同期
客室稼働率	72.0%	72.3%	+0.3pt	74.4%	+2.1pt
平均販売室料（円）	19,351	23,354	+4,003	28,612	+5,258
平均販売室料（米ドル）	222.42	228.96	+6.54	238.83	+9.87

I. エグゼクティブ・サマリー	P2
II. 主な取り組み及び営業指標	P7
III. セグメント情報	P14
IV. 決算実績 詳細資料	P19
V. 2016年3月期業績予想	P23

Ⅲ. セグメント情報

①都市交通・沿線事業

都市交通・沿線事業

(金額単位：百万円)

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	増減額	摘要
営業収益	116,260	117,665	+1,405	
鉄道業	75,839	77,836	+1,997	雇用情勢の堅調な推移や沿線での積極的なイベント活動、沿線観光地のプロモーション強化のほか、消費増税反動減の解消があったことにより増収。
バス業	18,935	19,472	+536	「西武バスIC定期券」の導入効果などにより路線バスが好調に推移し増収。
沿線レジャー業	16,394	16,515	+120	
その他	5,091	3,841	▲1,249	前期に子会社を売却したことなどにより減収。
営業利益	19,183	22,846	+3,662	増収による増益に加え、電気動力費や燃料費などコストの減少もあり増益。
償却前営業利益	35,077	38,166	+3,089	

Ⅲ. セグメント情報

②ホテル・レジャー事業

ホテル・レジャー事業

(金額単位：百万円)

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	増減額	摘要
営業収益	132,648	142,793	+10,145	
ホテル業（シティ）	75,954	81,733	+5,779	レベニューマネジメントの継続と、増加を続けるインバウンドを確実に獲得できたことで、平均販売室料が上昇するなど宿泊部門が好調に推移し大幅増収。
ホテル業（リゾート）	27,286	28,904	+1,617	レベニューマネジメントの継続と、増加を続けるインバウンドを確実に獲得できたことで、客室稼働率および平均販売室料が上昇するなど宿泊部門が好調に推移し増収。
ゴルフ場業	10,549	10,584	+35	
その他	18,858	21,571	+2,712	仙台うみの杜水族館の開業やエプソン アクアパーク品川のリニューアルオープンなどにより増収。
営業利益	8,532	17,432	+8,900	増収による増益に加え、退職給付費用の減少などもあり増益。
償却前営業利益	16,796	25,893	+9,096	

Ⅲ. セグメント情報

③不動産事業・建設事業

不動産事業

(金額単位：百万円)

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	増減額	摘要
営業収益	35,739	37,681	+1,942	
不動産賃貸業	22,828	23,731	+902	グランエミオ大泉学園の開業や前期に実施した軽井沢・プリンスショッピングプラザの増床に伴う貸付床面積の増加などにより増収。
その他	12,910	13,950	+1,039	軽井沢において分譲地を販売したことや駅売店（TOMONY）の好調などにより増収。
営業利益	11,116	12,093	+977	増収による増益。
償却前営業利益	13,987	15,249	+1,261	

建設事業

(金額単位：百万円)

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	増減額	摘要
営業収益	68,372	68,853	+480	
建設業	48,760	50,729	+1,968	工事の進捗及び前期からの繰越工事の増加により増収。
その他	19,611	18,124	▲1,487	造園請負工事の減少などにより減収。
営業利益	1,584	1,400	▲184	一部工事で工事損失引当金を計上したことにより減益。
償却前営業利益	1,798	1,651	▲147	

Ⅲ. セグメント情報

④ ハワイ事業・その他

ハワイ事業

(金額単位：百万円)

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	増減額	摘要
営業収益	10,173	13,070	+2,897	レベニューマネジメントの強化や団体客の取込みのほか、為替レートの変動もあり増収。
営業利益	▲ 1,154	▲ 896	+258	増収のほか、光熱費の減少などにより損益は改善。
償却前営業利益	117	654	+537	

その他

(金額単位：百万円)

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	増減額	摘要
営業収益	29,343	30,167	+824	西武ライオンズの観客動員数が増加したことや、近江事業でバス事業が好調に推移したことにより増収。
営業利益	1,645	2,039	+393	増収による増益。
償却前営業利益	3,424	3,894	+470	

I. エグゼクティブ・サマリー	P2
II. 主な取り組み及び営業指標	P7
III. セグメント情報	P14
IV. 決算実績 詳細資料	P19
V. 2016年3月期業績予想	P23

IV. 決算実績 詳細資料 連結損益計算書サマリー

(金額単位：百万円)

	2015/3期 第3Q	2016/3期 第3Q	増減額	摘要
営業収益	359,079	378,862	+19,783	都市交通・沿線：+14億円、ホテル・レジャー：+101億円、 不動産：+19億円、建設：+4億円、ハワイ：+28億円、 その他：+8億円
営業利益	40,828	56,055	+15,227	都市交通・沿線：+36億円、ホテル・レジャー：+89億円、 不動産：+9億円、建設：▲1億円、ハワイ：+2億円、 その他：+3億円
営業外収益	1,957	2,009	+51	
営業外費用	8,131	7,603	▲528	支払利息：▲5億円
経常利益	34,654	50,461	+15,807	
特別利益	1,068	1,781	+713	
特別損失	2,851	18,972	+16,120	当期：減損損失 128億円
税金等調整前四半期純利益	32,870	33,270	+399	
法人税等	10,235	13,299	+3,064	
四半期純利益	22,635	19,971	▲2,664	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	63	103	+40	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22,572	19,867	▲2,704	

IV. 決算実績 詳細資料

営業外・特別損益

(金額単位：百万円)

	2015/3期 第3Q	2016/3期		摘要
		第3Q	増減額	
営業利益	40,828	56,055	+15,227	
営業外収益	1,957	2,009	+51	
受取利息・配当金	535	649	+113	
バス路線運行維持費補助金	363	344	▲19	
持分法による投資利益	26	31	+4	
その他営業外収益	1,032	985	▲46	
営業外費用	8,131	7,603	▲528	
支払利息	7,693	7,152	▲541	
その他営業外費用	438	450	+12	
経常利益	34,654	50,461	+15,807	
特別利益	1,068	1,781	+713	
固定資産売却益	421	312	▲109	
工事負担金等受入額	576	988	+412	
補助金収入	55	99	+43	
投資有価証券売却益	—	105	+105	
その他特別利益	14	275	+261	
特別損失	2,851	18,972	+16,120	
減損損失	81	12,870	+12,789	当期：安比奈車両基地整備計画の廃止決定（27ページ参照）
固定資産売却損	13	111	+97	
固定資産除却損	965	1,032	+66	
工事負担金等圧縮額	513	976	+462	
固定資産圧縮損	45	80	+34	
投資有価証券売却損	—	4	+4	
投資有価証券評価損	—	0	+0	
その他特別損失	1,230	3,895	+2,664	当期：訴訟関連費用の計上
税金等調整前四半期純利益	32,870	33,270	+399	

IV. 決算実績 詳細資料

連結貸借対照表サマリー

(金額単位：百万円)

	2015/3期 期末実績	2016/3期 第3Q末	増減額	摘要
資産 合計	1,519,911	1,506,054	▲ 13,857	
流動資産	104,618	106,743	+ 2,125	未成工事支出金 + 2,710
固定資産	1,415,293	1,399,310	▲ 15,982	投資有価証券 ▲ 2,492 有形・無形固定資産 ▲ 13,349 (うち土地 ▲ 12,804)
負債 合計	1,152,474	1,129,822	▲ 22,652	
流動負債	323,334	303,294	▲ 20,040	短期借入金の減少 ▲ 6,454 設備投資未払金などの減少
固定負債	829,139	826,527	▲ 2,612	訴訟損失引当金 ▲ 7,647 長期借入金 + 2,809
純資産 合計	367,437	376,232	+ 8,795	利益剰余金 + 16,992 退職給付に係る調整累計額 ▲ 5,057
有利子負債 期末残高	840,329	833,002	▲ 7,326	
Net有利子負債	816,742	811,407	▲ 5,334	

I. エグゼクティブ・サマリー	P2
II. 主な取り組み及び営業指標	P7
III. セグメント情報	P14
IV. 決算実績 詳細資料	P19
V. 2016年3月期業績予想	P23

V. 2016年3月期連結業績予想

金額単位：億円	2016/3期 通期予想	2016/3期 11月予想	対11月予想 増減率	2015/3期 実績	対前期 増減率
営業収益	5,054	4,997	+ 1.1%	4,817	+ 4.9%
営業利益	636	605	+ 5.0%	496	+ 28.2%
償却前営業利益	1,046	1,017	+ 2.9%	900	+ 16.2%
経常利益	559	527	+ 6.1%	420	+ 33.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	487	365	+ 33.2%	349	+ 39.6%

(注) 金額は記載単位未満を切り捨てており、諸比率は四捨五入によって表示しております。

第3四半期連結累計期間までの業績等を踏まえ、
2015年11月12日に公表いたしました**通期の連結業績予想を変更**しております。

- **営業収益** 5,054億円
宿泊部門が好調なホテル・レジャー事業や繰越工事が増加している建設事業を中心に好調に推移していることなどから
前回予想から57億円上方修正。
- **営業利益** 636億円
増収に伴う増益に加え、各種コストの減少などもあり、前回予想から31億円上方修正。
- **経常利益** 559億円（前回予想から32億円上方修正）
- **親会社株主に帰属する当期純利益** 487億円
安比奈車両基地用地の整備計画を廃止したことによる減損損失を計上したものの、
今後、求償債権計上益を特別利益に計上する見込みとなったことなどから、前回予想から122億円上方修正。

(注) 連結業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、
実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

V. 2016年3月期連結業績予想

金額単位：億円

セグメント別営業収益

	2016/3期 通期予想	2016/3期 11月予想	対11月予想 増減率	2015/3期 実績	対前期 増減率
都市交通・沿線事業	1,572	1,570	+ 0.1%	1,557	+ 1.0%
ホテル・レジャー事業	1,876	1,844	+ 1.7%	1,751	+ 7.2%
不動産事業	495	495	▲ 0.0%	485	+ 2.1%
建設事業	1,026	962	+ 6.6%	979	+ 4.8%
ハワイ事業	192	209	▲ 7.9%	139	+ 38.1%
その他	372	372	+ 0.0%	365	+ 1.9%
調整額	▲ 483	▲ 458	-	▲ 462	-

セグメント別営業利益

	2016/3期 通期予想	2016/3期 11月予想	対11月予想 増減率	2015/3期 実績	対前期 増減率
都市交通・沿線事業	259	252	+ 2.7%	230	+ 12.7%
ホテル・レジャー事業	202	172	+ 17.2%	105	+ 91.7%
不動産事業	141	137	+ 3.0%	147	▲ 3.8%
建設事業	25	25	▲ 2.7%	28	▲ 10.9%
ハワイ事業	▲ 8	4	-	▲ 13	-
その他	10	10	+ 7.6%	8	+ 23.0%
調整額	5	2	+ 116.4%	▲ 10	-

セグメント別償却前営業利益

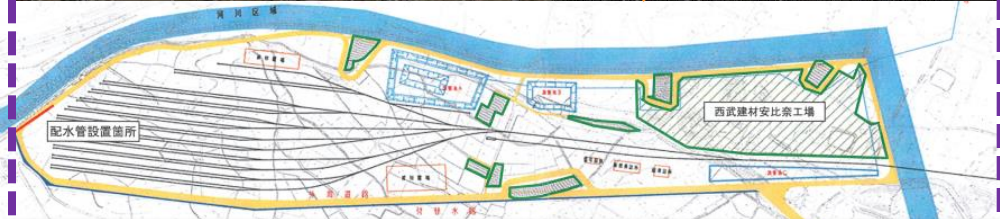
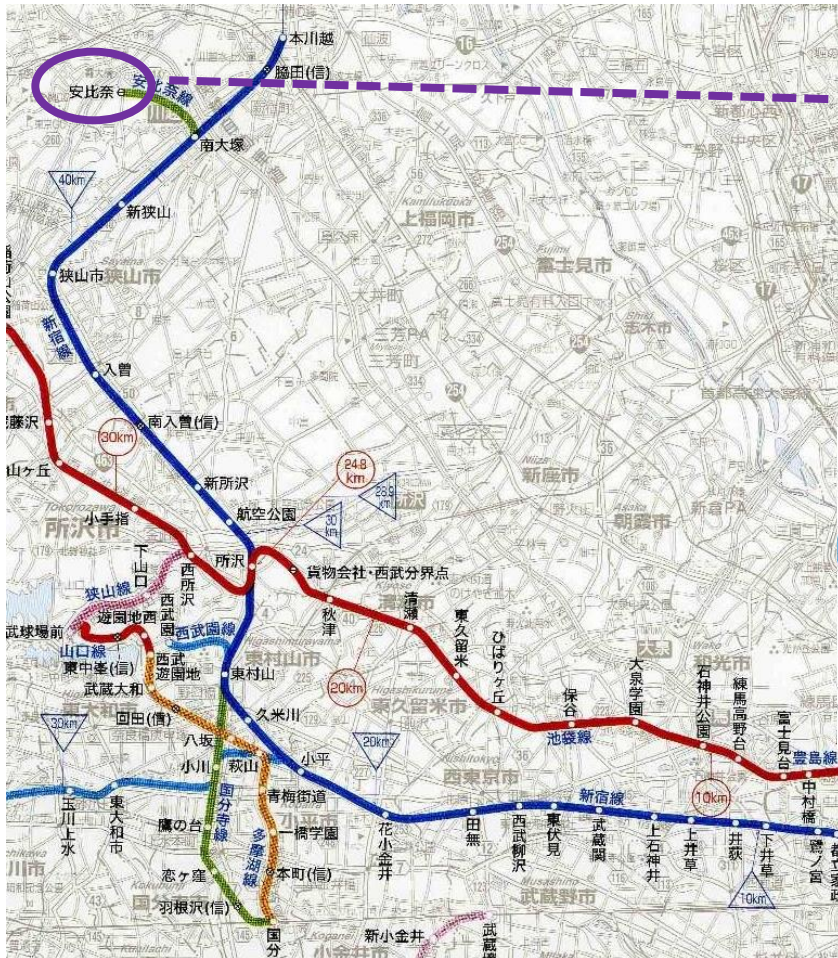
	2016/3期 通期予想	2016/3期 11月予想	対11月予想 増減率	2015/3期 実績	対前期 増減率
都市交通・沿線事業	469	464	+ 1.1%	445	+ 5.3%
ホテル・レジャー事業	317	288	+ 10.4%	216	+ 47.0%
不動産事業	184	180	+ 2.2%	186	▲ 1.1%
建設事業	28	29	▲ 3.0%	31	▲ 8.1%
ハワイ事業	11	24	▲ 52.0%	3	+ 257.4%
その他	36	35	+ 1.5%	33	+ 9.8%
調整額	▲ 2	▲ 5	-	▲ 15	-

2016年3月期第3四半期連結累計期間におきまして、下記のとおり、減損損失を計上いたしました。

【減損損失の内容】

当社の連結子会社である西武鉄道株式会社は、同社が所有する安比奈車両基地用地（以下「当該固定資産」という。）におきまして、その整備計画を廃止する決定をいたしました。それに伴い減損の兆候が認められたことから「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当該固定資産を回収可能価額まで減額し、減損損失12,640百万円を特別損失に計上することといたしました。

特別損失（減損損失）の計上について



【基地計画概要】
 面積：概算20ha 留置両数：200両 構造：トンネル、高架橋
 引込線建設（南大塚～車両基地間）：約2.6km

○安比奈エリアは川越市総合計画において、周辺環境との調和を図りながら、地区の特性に応じた土地利用に努めようとする箇所とされており、よって本日の決定を機に、川越市及び関係各所にご説明させていただくと共に、今後の進め方についてもご相談させていただく予定でございます。

回収見込み額（求償債権額等）

25,555百万円

- ・ 当社の連結子会社である西武鉄道株式会社、株式会社プリンスホテルほかは、堤義明氏ら旧経営陣に対し有する求償債権等について、その全額を回収する。
- ・ 堤義明氏ら旧経営陣からの回収見込み額は255億円（特別利益に計上）となる。
- ・ 回収見込み額には、金銭のほか、非上場の「株式会社NWコーポレーション（以下、「NW社」という。）の株式」による代物弁済が含まれる。
- ・ NW社は、当社の持分法適用会社となる見込み。
- ・ NW社が保有する当社株式の議決権（約15%）は、相互保有の関係により消滅する。

堤義明氏のコメント

「上場廃止になり、多額の負担が会社に生じたなかで、後藤社長をはじめ役員、社員がよくここまで再建し、再上場を果たし、業績が堅調に推移していることについてたいへん感謝しております。

私は、従前より、会社に生じた負担については、他の元役員ではなく、私が負うべきものであると考えておりました。他の元役員は、年金生活に入っている者が多く、また、亡くなった者もいることからしても、限りはあるものの私の資産の提供による解決をお願いできればと願っておりました。

そこで、私は、昨年8月に、会社に対して資産の提供を申し出、身を委ねることといたしました。

その結果、今回、私の考えに同調してNW株を会社に提供した元役員4名とともに解決に至ったことにつきましても、感謝しております。」